

みちのものがたり

「太白」里帰りの道 (英国→日本)

桜に魅了されたイギリス人

だつた。乾燥を防ぐと、翌年は大根に刺して送つてもらう。今度は腐つていた。

十四代藤石衛門と後の十五代は首をひねり、やがて気づくのや。イングラムはウラジオロフで、赤道を通るからあかん。

運河から印度洋を渡る航路

に穂木を託していた。

シベリア鉄道で送つてほしいと。これらは暑くはない、船便より早い。32年

ムは1902(明治35)年と

07年に来日して日本に魅せら

れる。わが日本に桜の目を

向け、入手可能な品種を残ら

ず購入して英・ベネズエラの

自宅に植える。英國で日本の

桜を見つければ、それを分け

てもううごもした。広大な

イングラムの庭は、日本の桜

であふれるようになった。

2度目の来日から19年後、

イングラムは桜を見るために

改めて日本の土を踏んだ。待

つては幻滅だった。江戸期に400種あったといわ

れる多様な桜が、近代化と

も消滅しつつあった。

「ショックだったよう

で、日本人は歴史を大事にし

た。太白は生きていた。

しかし太白はあまりはしな

かった。日中戦争から太平洋

戦争へと進む時代、敵国から

台木に接ぎ木し、兩藤石衛

門が慎重に増やした。

しかし太白は広まりはしな

かった。日中戦争から太平洋

戦争へと進む時代、敵国から

台木に接ぎ木し、兩藤石衛

門が慎重に増やした。